平新報

No. 20

發行日毎月三回 五ノ日發行
發行兼編輯印刷人 山野邊庄吉
發行所 福島縣平町南町七七 平新報社
廣告料五號十二字詰一行一回五拾錢 場所指定倍增
定價一部送料共拾錢

磐中同窓會更新役員

去る八月十日磐中同窓會に於て左の決議をなす

一、役員改選は之を評議會に一任す

一、會則中副會長一名とあるを二名に改む

依つて評議員會を開き左の通り役員改選をなす

會長 白井一郎君
副會長 三森虎雄君
同 仲里文平君
幹事 遠藤俊一郎君
同「庶務」 關內正一君
同「會計」 諸橋元三郎君
同 木村守江君
同 青天目增藏君

更に評議員會は左の三氏を評議員に推選す

山崎宣吉、廣田德行、新田目春松、以上

從來の評議員左の如し

山崎清三、清水廣政、草野順平、加藤丈夫、阿部政右工門

右は新役員に同窓會より來た通知である

新役員評

右の如くで會長は磐銀專務白井一郎氏で第八回卒業生である副會長は二人制にして八方美人で定評のある飾田屋呉服店の三森虎雄氏此の人は平青年團長に此の頃なつた人で第十回卒業生、同辯護士法學士の仲里文平氏は第九回卒業生で三々會の一人であつて三々會には從來同窓會幹部に不平を持つて居る人が多く加ひて仲里氏は湯本町出身同町方面にも不平者多い今日仲里氏にして此の不平者を滿足せしめ出席さしむる腕あり哉否や筆者は氏の努力に注目せんとするものである。次に幹事の遠藤俊一郎氏は江名町中之作の人でヤマト醬油會社創立に力めつゝある人第十一回卒業生常に平に足繁く、十一回と申せば諸橋守次氏、井上貞治郎氏、柴田德二氏、綠川秀男氏等と共に士會とかを組織して居る人である、次は關內正一氏で關內油店主で釜屋の諸橋元三郎氏と等しく十六回卒業生で我が二八會友にして庶務を關內氏に會計を諸橋氏に押しつけた所はなか〳〵評議員連拔目がない次は、木村守江氏だが此の人は多分十八回卒業生で大浦村の醫學士である、縣議平銀の所謂大木村たる木村清治氏の甥と聞く、次ば青天目增藏氏で旅館料亭住吉屋本店の若店主で宴會等には相當心得のある人、十七回卒業生である

會長 白井一郎氏

評議員として

山崎清三、清水廣政、草野順平、加藤丈夫、阿部政右工門の五氏の外に第二回の山崎宣吉氏第三回の廣田德行氏とともに母校に敎鞭を採つて居らゝ人である。磐炭新田目春松氏（第六回）は多年會長の席にありし人世話役として御三人ともキモ入り御苦勞の事である……評議員の任期は知らざるも役員の任期は九二ケ年である向ふ二ケ年間の意義ある劃策と御世話振りを希望してやまぬ次第何事も輿論の下に進んで欲しい

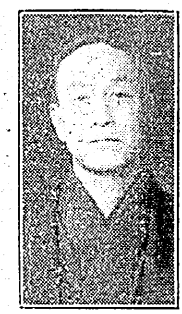
幹事 遠藤俊一郎氏

幹事（庶務）關內正一氏

幹事（會計）諸橋元三郎氏

幹事 青天目增藏氏

評議員 山崎宣吉氏


評議員 山崎清三氏

評議員 草野順平氏

評議員 加藤丈夫氏

評議員 新田目春松氏

（趣）（味）と所藏

尙古會銘々錄（三）

鷹崎貞衛氏

刻苦精勵の成功者で又柔道家での偉人正見氏を長男にもつ有名な人だ氏は會員中では幅物愛藏家で其他武具を非常に好む

幅物は伊藤春畝、有栖川宮の御書等と有名品が多い、武具は鎧、馬具、長刀鎗等と良い品を一通り御愛藏して居る氏の二階を訪れたならば其所には所せまく飾られてある。

山崎與三郎氏

一面識もない人でも氏を訪れるならば氏が如何に偉きかを一度にて知ることの出來る人だ會員では切つての能筆家で愛幅家だ

新書ならば何でもある又古書も澤山愛藏して居る陶器古銅器等と何でもあるそれで氏の愛藏品はどれでも筋がよく出來もよい。同好家は一度訪れ奥の座敷にて一盃の銘茶に拜見するがよい

鄕土の著述者 山田綠雨氏の パンフレット

「鄕人にかきおくる」近刊

磐城に於て著名なる著述者山田綠雨氏は既刊「鄕土に捧ぐ」の姉妹パンフレット「鄕人にかきおくる」を出版すべく準備中であると。因みに今回の刊行は◆鄕土に捧ぐ◆鄕人に告ぐ◆政戰雜感をへて第四回目の著述である。

閼伽井嶽に登る

東天紅

當地の靈山赤井嶽に八月中仁王門が再建され其開眼式が擧行されたが事故の爲めに參拜する事が出來ざりしに今回橫濱の親戚の學生が夏期休暇で來會したのを好期に家兒三人と共に登山

仁王門にて

◎開眼の仁王賽錢の雨を浴び

◎仁王門祭詣のあたりの紙礫

登山の途中馬に跨りて草刈に行く男子と打交りて甲斐々々しく白手拭頰冠りの若き女を見る

◎捨て難き女なりけり頰冠り

若き僧侶達は祭前の札作りに忙しき內休憩時間を利用して庭球に打興じてあり。

◎郤するボール僧房の靜寂か

模範的無盡會社

貧富協調の旗印、相互共益のモットー、庶民金融界の模範會社との賞辭を博しつゝある湯本信用無盡株式會社は其後益々順調なる發達の途を辿りつゝ最近二百圓五百圓等數口の滿會せるを期とし新に五百圓及千圓會を募集し去月大盛會裡に其初會を開會するに至つた。尙今後引續き五百圓會千圓會の新加入者を募集中にて同社は無盡の特能たる貧富協調の眞使命を遂行し庶民金融界の爲めに貢獻すべく活躍中の由である 加入希望の方は案內書を請求せらるれば喜んで御覽に供する由である。

時事研究例會

在平有新旬刊五社を以つてなる磐城時事研究會例會を去る二日午後六時半より新田町初音に於て開催し種々意見の交換と協議をなした

諸病に効顯ある 民衆的溫泉場 植田鑛泉閣

最近開湯せる植田町郊外植田鑛泉閣は東京淺草の人富田信治氏の經營により醫博荻原良一郎、東京市衛生試驗場長橫手千代之助兩博士の試驗査に依ると入浴飲用共に適し醫治効能として

「浴用」胃腸病、婦人諸病リウマチス、腦神經衰弱症身體虚弱症等

「飲用」としても右と同じく右諸病の醫治に効能頗る顯著なるものある由にて遠近を問はず入浴者が多い殊に植田町に近き「植田警察署より岩間街道に向つて約參町佐糖橋を渡るすぐ街道に近接せる田園中」所にして風景眺望も良しく普通入浴として植田町民に民衆的に利用されて居る。

社員募集

新聞事業に趣味を持ち意志の强固なる向上心活動力に富む靑年記者二名募集す要は本社主幹の宿たる平二丁目佐野屋旅館に於て時誼面談す

大正十五年九月
平新報社

略儀乍ら

安藤信義氏

平引き揚げの節は御餞別と御見送りとを辱うし略儀乍ら紙上を以つて御禮申し上げ候

因みに氏は去る三日朝平出發白河に十八日迄滯在同日白河發東京より大阪市南區大寶寺町仲ノ町三六に落ちつきたる筈に有之候

大正十五年九月
山田政好
山野邊庄吉

通信

謹啓、共節は種々御配慮を煩はし御厚誼の段深く御禮申上候、御伺ひの上緩々御話し致し度き事多々有之候へかど、時間の都合にて遂其意を得ず誠に失禮致し候、移住地建設の件は民族の發展と、人口問題、食糧問題解決の一助として御懇念相成度の希望に御座候、豫定通り本日八月二十三日桑港に上陸致し候、午他事御休神被下度候、午末筆皆々樣の御健康を祈度候、

八月二十三日
桑港にて
國府田敬三郎
諸橋守次様

× × ×

福島市大字福島字松木田一五
新妻一郎
八月十四日

「平新報」毎度御惠送に預り以御陸鄕地知友等の近況を知るを得其有効なる有難さを離鄕して始めて感じ入り申候、秋別以來一ヶ月有半近來漸くおちつきを見近く會津地方の行政巡視に出つる計畫に御座候過般右記の所に新居を移し申候、前ほはるかに吾妻連峰を望み後に信夫の沃野をひかへ申候も何分道路に近接し往過の車馬喧騷にて靜觀冥想の地には無之候、出福の際は是非御來駕被下度候、先は近況迄

× × ×

御一週年を祝します
八月二十五日
釜山日報群山支社長
北市喜多孝
朝鮮群山府曙町三

× × ×

群山日報裡里支局
宇津木蕉雨
朝鮮裡里桃園町

益々御元氣にて操觚界のために御奮闘の御樣子御喜び申上げます、度々御發刊の御紙を御惠送にあづかりまして誠に有がたく御禮申ます、私共も御かげ樣で其後變つた事もなく段々裡里の地にも馴れて暮しよくなりました、又朝鮮の方へでも御越しの節はどうぞ御寄り下さい、群山の齋藤氏も益々元氣にて群山座への入口にあつた眞鍋藥店の跡を引受けて新聞の傍ら藥種商をなして居ます、先は暑中御伺ひかた〴〵右まで

× × ×

朝鮮全州本町一丁目一四一
十五日 湯原亮夫

今夏も御健在にて御過しなされしや、思ひ出した樣に禿筆を振ふて御伺ひ申す、實は目下衛生課に鈴木警部と共に勤務して居る關係上兄が全氏に送り來る新聞を見て陰ながら只々兄の健在を祝福して居る譯なんです當方も近頃は到つて同級生も少くなり誠に影が薄くなりました、森田君も鎭安の司法に居ります、金堤に浦衣裝部長、出浦安藤昌之亟部長、井邑に佐々木隆、一町田槇一、高敞阿部靖作、南原松井菊次郎、田所米次郎、八卷廣金州西尾斧次郎、石村又三郎、塚本源三郎、平野龍吉、茂木に河野富民位僅十四五名になりました、今頃は大した元氣の人も目當りません、平野君も營文に毎年出て行く……朝鮮に流れて浮き上らずに居る不肖等に一つ與奮劑でも投じて下さいませんか今頃の小名濱も盛んでせう御多忙ならんとは思ひますが御暇の折には何分詳細御報下さいませんか、思ひ出の種となる事もあると思ひます、海岸線は私に取つても一鄕土に等しいのですから……まあこの位で擱筆次便に又御便り申しませう。

× × ×

其後の御無音を謝す、毎度平新報御送成下され有り難う御座います粒々辛苦、既に第十九號を發行、御奮闘感激致して居ります、兄が辛苦の酬いらる、日近からんことを衷心より祈つて居ります、僅少ながら購讀料參圓御送り申上げましたから御受取り下さい、

尙私儀今般左記へ轉居致しましたので殘暑御伺旁々御通知申上げます。

大正十五年九月
神奈川縣足柄下郡前羽村前川鐵道官舍第十一號「國府津驛下車、東方山手、徒歩十五分」
長瀨元治郎

× × ×

山野邊庄吉様机下

前略小生如き働きのない人間が新同窓會の幹事に擧げられその任にあらざるは勿論に候へども幸に貴兄始め同窓會生諸兄の御後援によりその幾分なりとも満たし度と考へ居り候間何分よろしく御願申上候 草々

九月十九日
大浦村
醫學士 木村守治

「次第不順」

金五圓也	釜屋殿
金五圓也	諸橋守次殿
金五圓也	諸橋元三郎殿
金壹圓也	平驛公認運送組合殿
金貳圓也	酒井淸殿
金壹圓也	渡邊源吉殿
同	柴田テイ殿
金貳圓也	青天目增藏殿
金壹圓也	藤沼平次郎殿
金貳圓也	阿部治平殿
金壹封	大和田與平殿
同	原野寅吉殿
同	飯田一二殿
金壹圓也	櫛田榮太郎殿
金五拾錢也	佐藤作平殿
金壹圓也	市原卯太郎殿
金壹封	佐竹菊雄殿
金貳圓也	金古政利殿
金壹圓也	吉田新聞店殿
金五圓也	平藝妓屋組合殿
金貳圓也	中野甲藏殿
金壹圓也	大森勇殿
金壹圓也	丹野榮三郎殿
同	關內正一殿
金參圓也	山崎與三郎殿
金壹圓也	有賀幸太郎殿
同	麻生川顯殿
同	佐々木龍若殿
金參圓也	白井一郎殿
金壹圓也	柴田德二殿
金五拾錢也	阿部唯次郎殿
金壹圓也	山田信次殿
同	山野邊義政殿
金五圓也	赤塚艷子殿
金壹圓也	多田井正次郎殿
金貳圓也	井上茂作殿
金貳圓也	武田精一殿
金壹圓也	加納五郎殿
金壹圓也	酒井ミヨ殿
金貳圓也	渡部淸美殿

一週年に當りて（一）

本紙購讀者廣告主御芳名

本紙創刊昨年八月二十五日より今日に至りたる事は左記各位の廣告に購讀料寄稿に物心の御後援の賜と存じ此處に略儀乍ら紙上を以て深謝仕度候

大正十五年九月
平新報社
各位殿

◆本紙の發送先

尙本紙は御援助芳名者へは勿論磐中同窓會友石城郡內各町村役場、議員、各學校各官公署會社其他有志へ郵送仕り居るものに有之廣告宣傳等には有効のものと信ずるものに有之候間是非本紙を利用し被下度候

御芳名（次第不同）

◆平町の部

◆壹町目
飯田一二殿
清仙堂 綿引印舖殿
町會議員 鷹崎貞衛殿
銃砲商 渡邊貫一殿
境屋 久野柳助殿
和久井屋漆器店殿
平木材商組合殿

◆貳町目
初音殿
平町會議員 一同殿
町會議員 柏原眞吾殿
西村屋藥舖殿
伊關呉服店殿
花澤米穀店殿
田卷香油店殿
江島尾洋服店殿
石川友次郎殿
三井履物店殿
柏屋モスリン店殿
清光堂書店殿
關內油店殿
なかや洋服店殿
中野洋品店殿
遠藤帽子店殿
大一屋 丹野榮三郎殿
荒物商 白土屋殿
かみや呉服店殿
かみや米穀店殿
坂田金物店殿
大村屋旅館殿
平銀行殿
越の家殿
藤市カマボコ店殿
谷口樓殿

◆參町目
大黑屋洋品店殿
和田禎宗殿
石城郡銀行組合殿
磐城銀行殿
町會議員 大谷久藏殿
星製藥 磐城配給所殿
龜田屋呉服店殿
中野呉服店殿
三井呉服店殿

◆四町目
荒物商 伊勢屋殿
質店 三井富吉殿
マルトモ 柴田書店殿
百澤商店殿
山城屋殿
宍戸鮮魚店殿
佐藤齒科醫院殿
關內藥舖殿
磐城實業銀行殿
鈴木辰三郎殿

◆五町目
釜屋商店殿
諸橋敬一郎殿
盛多屋 星野清吉殿
山野邊藥局殿
磐城建物會社殿
消防組頭 井上茂作殿
大竹久太郎殿
山光堂造花店殿

◆六町目
鈴木材木店殿
荒川淺次郎殿

◆鎌田町
町會議員 佐藤岩次郎殿
草野七五三之助殿

◆新川町
町會議員 中野勇吉殿
松崎菊三郎殿
同 諸橋國松殿
吉田義男殿
若松醫院殿
產婆 江尻カネ殿
佐藤材木店殿

◆南町
上田外科醫院殿
村上小兒科醫院殿
酒井醫院殿
磐越銀行殿
自轉車商 鈴木彌太郎殿
大和田耳鼻咽喉科醫院殿
作山門殿
小野信一郎殿
磐崎屋支店 萩原齒科醫院殿
大森醫院殿
平土木監督所員一同殿
平產婆看護婦學校殿
辯護士 山野邊義政殿
同 眞木桓殿

◆鍛治町
福島民報支局長 山田磐磨殿
平藝妓屋組合殿
國府田直良殿
吉田伴吉殿
小野澤辯護士殿

◆公園
尼子亭殿

◆田中
加藤新殿

◆材木町
縣會議員 草野順平殿
町會議員 阿部太平殿
佐藤卯右衛門殿

◆長橋町
町會議員 遠藤林松殿
小野圓次郎殿

◆研町
山田綠雨殿
宗像金物店殿
町會議員 佐藤芳松殿
矢吹醫院殿
橫濱生命保險社平代理店殿
中野甲藏殿

◆紺屋町
町會議員 會川卯三郎殿
柳下元吉殿
吉田眼科醫院殿
藤沼醫院殿
白井一郎殿
新妻眼科醫院殿
淡屋旅館殿
旅館 住吉屋本店殿
町會議員 加納五郎殿

◆土橋町
佐々木健一郎殿
鹽屋 山崎合名會社殿
根本敎一殿

◆搔提小路
町會議員 阿部政右衛門殿
清光堂分店殿
瀨尾藥店殿
平陽女學校殿
吉田廣三郎殿
吉田五平殿
魁文堂殿
辯護士 酒井喜代正殿
同 仲里文平殿

◆舊城址
平學校長懇話會殿
青沼錦太郎殿
磐城立憲新報社長殿
小泉宗雄殿
元和園主 植竹源太郎殿
山崎宣吉殿
滑川一郎殿
磐城祐賀學舍殿

◆八幡小路
松井深殿

◆古鍛冶町
武藏鐵工所殿

◆久保町
遠藤平太殿

◆磐城中學校內
山名隆貞殿
磐城中學校交誼會殿

◆北白銀町
廣田德行殿

◆四軒町
佐々木龍若殿

◆大工町
多田井質店殿
東部電力平營業所殿

◆白銀町
清水醫院殿
町會議員 櫻井清殿
石島敎福改メ德長殿
加藤營業所 加藤丈夫殿

◆田町
磐城病院殿
旅館 新藤屋支店殿
辯護士 漆畑元吉殿
高久病院殿
廣瀨支店殿
永井安太郎殿
牧原眼科醫院殿
旅館 住吉屋支店殿
平驛公認運送組合殿
町會議員 森本盛一殿
松月堂菓子舖殿
町會議員 野崎滿盛殿
合津耳鼻咽喉科醫院殿
藤田榮助殿
大貞殿
料亭 丸山喜一郎殿
平料理屋組合殿
運動具商 大塚支店殿
酒類販賣 馬目支店殿
品澤アク殿
博愛病院殿

◆胡麻澤
桐谷文平殿

九月二十三日迄（以下次號）

御待ち兼ねの
中學服取揃ひました
優等品にて
一年生位用……五圓六拾錢
二年生位用……五圓八拾錢
三年生位用……六圓也
四年生位用……六圓貳拾錢
但シ磐中。平商の釦は貳拾錢高
平二丁目
なかや洋服店
電話二〇三番

計量器の販賣を開始致しました、皆様の御用命を是非御待ち申します。
營業種目
農家用消毒殺虫劑各種
計量器販賣、處方調劑
新藥純良藥品
高級賣藥、自家製劑
衛生材料、食料品、化粧品
平町五丁目角
山野邊藥局

內科、小兒科、皮膚科
藤沼醫院
平町紺屋町
電話五〇七番

植田町 電話一〇七
片岡醫院
慈惠醫學士
院長 片岡章

佐藤穪醫院
平町四丁目
電話五〇八番

九月二十日より開設
外科
耳鼻科
咽喉科
內科
小兒科
產婦人科
泌尿器科
藥局
―入院の設備あり―
日本醫學士 河井壽雄
日本醫學士 河原英雄
顧問 ドクター 村島耕造
主任 北村馬次郎
平町田町橫町（橫內耳鼻科醫院跡）
博愛病院

平四丁目喜好屋跡に販賣支店を九月二十四日より開設致しました。
平通り六丁目
最新美術
造花製造
山光堂造花問屋
於各品評會賞狀ヲ得

磐城湯本
溫泉旅館
松柏館
電話五番

植田町
本町
森合齒科醫院
森合芳男

動中靜觀

一派に偏すな『磐中同窓會』

主筆 山野邊庄吉

◇磐中同窓會役員は一面揭載の通り全部新顔となり新陳容成る、氏等の將來二年間の活躍は刮目に價すそれ期待を裏切る勿れ、然し筆者同窓會員の一人として前幹部並びに所謂評議會と稱する人々に一言したい、何故に會員同志の協調を計り親密を骨子とするならば常に不平を抱く不出席勝ちな分子をも幹事となす雅量を示さなかつたか、それが選擧を以てなしたならば兎に角今回に限り一部評議員の指命なりといふではないか、然して副會長の二人制は何の必要ありてなせしや、この二人とも在平住の人を以つて當てることはあまりに平にかぶれて居る、吾人は新田目前會長の不人氣たりしは何も是非を問ふのではない、アマリ任期永きため嫉飽氣が生じたりしためなりと推するものである、然し氏の多年の勞は大いに多とする一人である、評議員會そのものも新田目會長時代に生れしものと聞く、會長が否な幹部が尻ク、リが出來るとせば評議員會の必要はない何も今更普選の今日西園寺詣でもあるまい殊に滑川校長や現職員、評議員、前幹事諸氏の思潮が時勢に逆行して居りはせぬか氏等は金持なら何でも仕事が出來ると思考して居るらしい、實に事大思想も甚しい、要は輿論を聞いてなせ、一部評議員の私すべきものでない、この意味に於て今後開會の出席員は過去と何ら變りないと云ふ事を斷言して置く、何故ならば新幹部は從前からの出席員會員のみにして不出員はない樣である尙ほ一つ新會長白井一郎君にもの申したい新舊幹部の事務引きつぎに際して基本金一萬圓集め等と議決してこれを新聞に發表する如きあまりに僭越である、新年會もある事その折總會に計つて言明しても遲くはない筈である、右は筆者の意のある所を具陳せるもので何も同窓會そのものにそう期待するものでなく又同窓會そのものは學校を中心としてであつて親交を旨として母校に問題起らば力を致すべきで他の事業か又は選擧等に期待すべきものでないと私考す、尙ほ幹事は右常任幹事以外一クラス毎に一名乃至二名の幹事を置くべきである、一回に一名つゝでも二十六回として二十六名であつて千余名の會員に二十六名の幹事は尠きの觀あるも多過ぎるとの非難はあるまいと私考するもので筆者は此點を再三力說せるに拘はらず前幹事、評議員諸君が此の點を採らざるは、氏等に從前よりより以上出席會員の增加親交に自信あるものなりや何事も選擧の世の中一部の人の薦衡指命等をなすはそれが例となりはせぬか滑川校長並びに前幹事又は本年總會出席員諸君が何が故に從前は選擧の形式をとりたるに拘はらず本年のみ評議員一任の擧に出でたる理由を敢て借問せんとするものである……が事は既に過ぎた新人揃ひの新幹事諸君物事は相談の上事を計れ……ば事は圓滿に………進むものである。

長谷川君の入社に際して

本社は相當の社格に達する迄は一社一人主義で通す所存であつた……が今回長谷川正夫君を入社せしめ社務を取扱はせて居る、……此の件に對して本社に好意を持たる人々殊に某町議は『何故にアンナ者を使ふか』との非難と忠告がある、氏等の此の非難と忠告は大いに多とする、筆者はかつて創刊匆々磐中學時代に見知つて居つた平町出身の草野廣司君を入社せしめて社務を取扱はせた事がある、……その折も大分非難されたと共に、彼を社會は白眼視した湯本方面に赴した所筆者の友は平驛まで尾行した彼は憤した、彼草野はどう〳〵居たゝまらず入社以來旬日ならずして余に反いて姿をくらまして了つた、辱知諸君……長谷川にもこの二の舞をさし下さるな、本社に好意を持つならば長谷川に對し彼の過去を咎めず彼を蘇らし復活さして貰ひたい、人間はクリ返すものだと一言に斥けて了ふならそれまでだが人の性は善なるものである、感激し易い青年は世の無情を憤せる場合は如何なる事を仕出かすも知れぬ、警察では人事相談所がある、その他職業の紹介所何々と社會敎化の事業あり、平にも免囚保護事業がある筈である。筆者の目的は人間一人を生かす事にある、失業者救濟にある、その意味に於て自重、向上しつゝある吾が長谷川を活かすも殺すも世の人の白眼視するか、溫情味を以つて接し吳れるかにある、長谷川をして第二の草野たらしめざらん事を此の際伏して懇願するものである、因みに長谷川は磐城立憲新報社々員として小泉社長の下に一年有半奉仕次いでたひら新聞社々員として山田綠雨氏に仕へ過般常磐新聞なるもの發刊の企てなせしも都合上今日に至りたるもので本郡大野村中島の出身二十四歲の前途ある青年である然るべく世の御指導を切望してやまざるものである、筆者を信ずるならば長谷川が本社々員と稱し向ふとき『平新報』を信じて貰ひたいものである

世は實力戰なり『共濟會』の事ども

平町の共濟病院御家騷動のため平の各病院天幕張りで患者收容し野戰病院の如しと報じた新聞紙あり平のどの病醫院が天幕張りで患者を收容せしや、天幕張患者收容する事マサか其筋で認めまいし、それ程共濟病院に患者が居つた事でもあるまい共濟病院の生立と現在內容はどうであつても彼賀澤氏があれまで築き上げた努力と苦心その奮鬪に筆者は最大の敬意を表するものである、遠藤俊一郎君のヤマト醤油の事業、小野晉平君の磐城水產工業何々と一つの事業を成すには並大体の苦心ではない、その成功をネタんで難クセを附する如きは磐城人の惡いクセである、世の中はすべて實力戰である、先づ自らの內實を計れまして共濟病院その會自体の重要の位置にある人々が賀澤會長を排せんとする如きは人の仕事を勞なくして橫取りする如きものである、共濟會の重役連、博士共先づ醫者仁術てふ良心に立ち還れ卿等の今日の狂態は良心に問ふて辱しくないか、良心ないものとせば此の限りにあらず醫師の本來の職業的責任觀念より問題を起せる獅子身中の重役共それでも紳士として体面を保ち得るや敢て借問せんとするものである。

久野氏去り安藤氏を送る

かつて磐洲日報社長として近來商工時報や茨城日報に籍を置いた久野眞宏氏が左の如き悲痛なハガキを寄せて去る九月二日平を去つた

心ならずも、夜逃げの樣に一日夜急行にて失禮出發いたし申し候　不一

久　野

氏は在平文筆生活五年有半と聞く、隨分と身命を賭して戰つた事もあり水道問題では毆打された事もあつたと、選擧の折は憲政會のため奮鬪せりと聞く、末路かくの如く惠まれざるも甚しく己れの罪か知らざるも吾人石城政黨員に對し猛省せざるを得ぬ……考へさせられる……久野氏と同時に舊子爵故安藤信篤氏令弟信義氏も平を去つた、安藤氏の去るに際しては筆者山田政好氏を動かして多少の餞別をすべく共に有志に禮讃した、人每に信義氏の不身持をせめる……生別死別に對して何をか言はん、信義氏不身持ならざれば子爵が歸つて來るといふのか、爵位そのものは氏令兄信篤氏存命中有馬伯家と事定まり居りしにあらずや、その爵位交換代は氏母堂の生活費月四拾圓とか、此處に見逃しならぬは平安會である、八月十八日平安會主催で維新殉死者追悼會を催せるとかその折信義氏に對して何ら案內もせなかつたとか、吾人は今更何事も言はぬ、信義氏去る……三日平驛頭出發に際し見送りしは舊藩士としては飯田一二翁と佐々木龍若氏の二氏他に金古氏原野氏阿部治平氏と山田氏に筆者であつた、去るものにはつれない……吾人淚なきを得ぬ、平安會の人々は氏の出發を知らなかつた筈はない、氏は相當挨拶に廻つて居つた筈であつた、信義君何事も言はぬ、身心の健在に平安會の人々を見返し給へ、平龍ヶ城の對洲公安藤家の直系血族は氏一人である年齡正に參拾前途あり切に自重自愛を祈つてやまぬ、

平を去るに臨みて

安藤信義

余は平を去る喜びに遭遇した、在平十年冷遇と嘲笑と貧窮の屈辱の生活を余儀なくされた此間短いものではなかつた、

大正五年夏病兄に呼ばれ其年冬不皈の客となつて余の鼠坂閑居とはなつたが當時余を知る者は少なかつた、今では殆んど愚痴になるから書かぬが段々寂しさに堪へられない幽鬱悲哀の情抑へ難く、よくあてどもなく彷徨ひ歩いた、失望の余り自暴棄となつて快樂と云ふ快樂に身を投ぜんと思ひ迷つた否行つた然しそれは苦痛を增すのみで何にもならなかつた、

愈々永久に平を去る事を得たので此處に山野邊平新報主幹の御厚意に甘えて紙上に余を知る諸君へ永別の辭を致す、

× × ×

山野邊兄

足下に告別の辭を呈す

在平十年………

そは必ずしも短しとはせぬ、殆んど幽閉に等しい生活は平に永住すべからずとの無言の宣言であつたであらう、

冷笑、罵り、奸詐、等々で賣られ羨妒（サヨヤミシヤマスル）に屈辱の生話を强ひられ抗し得ざる愚や噫、安住の地を求めて去るのみである、

ほんとうの故鄕、「東京」は惱みと悲しい思ひ出の都弱い余の耐へらるゝものでない、

第二の故鄕「新潟」は双手をひろげて待つては吳れるが所詮墳墓の地でない事を知る、

反坑しつゝ十年………或時は蕩見として遊興三昧にかへつて苦を增し、或時は有力者に賴つて數氏の即ち他力本願を念じて嘲笑と誹り

に何等價値と意義のない銅像に價値否意義（理由、あらしめた爲體で迫はるゝ者の知く去る有樣であるけれども忍從と聖報の生活は甚まれてきた、

行け！行つて働け！

何處よりか救ひの手げのびてきて弱いものに力づけてくれる、愈々皈ります、行く先はきまつた第三の故鄕、今日の喜びに遭逢して胸は高鳴り、天の榮光贊美しつゝぺんは走る、

山野邊兄足下

灰色の町、權謀と、奸曲と、誣網との殺伐の町、平を離れ得る、交渉がなくなる、

何と嬉しい事よ、

兄と御別れするに臨み只管健鬪を祈り未來永却祝福あらむ事を……

大政奉還史論【一】

元磐城中學校教諭 荒木三郎述

茨城縣土浦町築地町

なつかしい山野邊君から、平新報へ何か書くやうにとの仰を蒙つた如何にも小生の如き老人でも生きて居るからには政治の可否も言ひたくなつたり時事の批判も陳べたくなつたり腹ふくらしてばかりも居られないが、さて考へて見ると矢張り老人は老人らしく古い事でも言つて居る方が相應だと思はれるのでこゝに德川慶喜公を眼目とする幕末史論の一節を書くことにする。理窟などを書くよりも事實で當世の青年諸君の一反省を願ひたいからである。

德川幕府が政權失墜の動機となつたものは形而上的には尊王論の勃興で形而下的には嘉永六年六月三日のペリーの來朝であつた。國政專斷の武斷政治で通して來た道がの幕府も返答一つで國家の存亡が決するのだから當惑この上はない。そこで例の通り鎖國主義でござるからと斷つたが今度の客人には効がなかつた。それもその筈だペリーは大統領ヒルモアから次の如き命令を受けて來たのであつた。『日本は慣用手段で各國並に祖先の遺法と稱して拒絶するに違ひないと思ふが我が北太平洋の漁獵の發達は如何にしても日本に寄港地を獲ねばならぬのであるから此の際武力を用ゐても國交を承諾させて來い」といふ譯であつた。それでペリーは幕府に向つて高飛車にかゝつて來て、拒絶しても取り受けない。大砲をうつたり陸上操練をしたり傲然として振舞つて居るから始末にいけなかつた。幕府も手古摺つて到頭返事を明年まで猶豫してくれと申込んだのでペリーもそれだけは承引した。米艦が浦賀を去るに臨み米士官は一の卷布を幕吏に交附して言ふには「吾々はまた來る。しかし日本は多分斷るであらう吾々が承引せぬ時は干戈を以て逐拂はうとするであらう其の時は交戰せねばならぬが戰爭は米軍の勝利ときまつて居るから和議をしたいと思つたときには、この白旗が二旒あるによつてこれを建てゝ來給へ、さうすると安全である」と隨分馬鹿にされたものであつた。我が國人は現に米國で排斥虐待の限りをつくされて淚を呑んで居るが米國から侮蔑されて居るのはこの通り祖先以來のことである。青年諸君の感想を聽きたいと思ふ。

この月十二日にペリーは浦賀を引拂つた。同二十二日に將軍家慶が薨じて翌七月に世子家定が十三代將軍になつた。幕府はペリーが來た時直に之を朝廷に奏上しついで米の國書を譯して之を諸藩に示しこれについての意見を陳べさせることにした。尤もこの意見は陪臣でも庶人でも陳べてよいといふことであつた。これが幕府の破綻であつた幕府の大失策であつた。しかし國家に取つては然るべき成行であつたと思はれる。幕府からから出られても諸大名にして見ても兵備の無いことは分つて居るのだから一定の見識の立つ筈はないが誰でも大聲で政治論が出來ることになつたので縱議橫論が沸き立つた。かうなると兎角硬論が勢のよいもので、一戰すべしなど、いふのが最も聲高であつた。然るに局に當る幕府では品川の砲臺を築いたり和蘭から大砲軍艦を買入れたり、諸大名に大船製造を許したり、砲臺を設けさしたり、丸で泥棒を捉へてから繩を綯ふやうな始末であつた。さうして上下に諮問した結果は幕府の妨害になつたばかりで一も助けにならなかつたのは折角擧國一致を計つた幕府の考も無効になつた譯であつたそこで幕府では和蘭の加比丹を以て米國へ將軍の喪中に付返答延期の旨を申込んだが無効であつた

ペリーは浦賀を引拂ふと眞直に香港へ往つたのであつた。年が改まると安政元年正月となつた。忽ちペリーは軍艦七隻でまた浦賀に現れた。水戸の德川齋昭は斷然交戰を主張したが老中阿部正弘は和親說を執つて遂に三月三日の和親條約十二個條が出來てしまつた。世論は甚だ喧しくなつた。

安政三年七月になると米國の總領事ハルリスが和親條約によつて下田に來た。幕府は外國官吏が駐任することは益々世間の騷ぎを大きくするからと言つて拒んだがハルリスは聽入れなかつた。この頃の老中は堀田正篤であつたが、ハルリスが支那の鴉片戰爭などを說いて之を脅しつゝ條約締結を說くので、正篤もよく海外各國の狀勢を取調べて意を開國に決したから遂に條約草案を議定し其の譯文を諸大名に示してその意見を陳へさせた。諸大名に贊否の兩派があつたのは勿論であるが、衆口一致の點は「條約を締結するには必ず朝廷へ奏聞し勅許を得てから調印すること」といふ趣意であつた。これが見逃すべからざることで世論が漸く皇室中心主義に傾いて來た證據で、即ち大政返上、王政復古の兆であつたと認め得る。

これから幕府は手をかへ人をかへて通商條約の勅許を朝廷に願ひ出たが當時有志家尊王家などゝ稱せられた志士が、京都に集つて公卿の間を遊說し從つて朝議を支配して居た形になつて居たから幕府慣用の懷柔も壓迫も効なく公卿の多數は「これまで通りの國風を維持したい、禽獸に等しい夷狄と接したくない」といふ心情の上に志士から過激論を吹込まれるから其の論は意外な强硬說であつた。それで孝明天皇からは幕府に對して「諸大名と熟議した上で更に奏上せよ」との勅が下された。これは出來ないこと勿論といふべき難題で正篤も最早手を引くより外仕方なく安政五年の四月五日に京都から阪東の途についた。

こゝに朝廷幕府の間に大罅裂が生じたのである。

（ツヾク）

× × ×

浮世は樣々

植田　艷子の丸髷

◇例のみどりの艷子愈々丸髷姿あざやかに去る日東京に去つた◇新油屋の勝利ドロンをきめて居つたが此程身代金の決濟はなくなり何處へ鞍更へかは確報ない◇つるの家でカホルは平の野口へ來て何とか名乘つて居る◇新油屋のメ子は平三島家から春子と名乘つて出た、

平

◇榮家の〇〇は足を洗つて去る五日水戸へ去つた、汽車は出て行く殘る煙〇〇てシーン……シツ

喜代治の理想男

◇玉川の喜代治アタイのラブとスの字とする理想男は体格の圖大な人でないと〇〇が合はぬとのハナシである、どうです偉大の体軀と〇〇の持主は彼女のスの字の志願をしては

藝妓の盆踊とダンス

◇福清の〇〇姐草枯れ時で狂え出したのか、去る十五日八幡祭りの夜更けて新田町は濱の側二丁目の領分の松の家といふ料亭の帳場で盆踊の立踊りを一人で手ばたきをなしながらヤコリヤ〳〵で狂つて居つたとか、此の妓時折夜更けて平銀前辻や大通りで醉男二人兩肩にダンスをやつて興じてる妓だから別に狂ひ出したのでもあるまいが宵の祭りに踊れず本年の踊り仕舞に松の家で奉納踊りださりとて帳場での立踊りはりはネ

藝妓とランプ屋乞食 刑事に狩り出された怪物

◎林家の〇〇が平銀前を通るとそこに腰を下して居る例のランプ屋乞食ニコ〳〵と笑ふ相だ。さうすると〇〇姐と半時間位の立話しか無言の會合が續く……由……彼ランプヤの禮讃する家は、石川亭、イツヤ、新藤支店……と、所謂くれる家に決つて居ると〇〇姐本人の話しだからサソはあるまい、ランプヤで思ひ出すが一ヶ月前平署刑事二人松ケ岡公園に泥棒を追ひ込んだ折ランプヤが、眠をとつて居つたのであらふそこへダシヌケに刑事君の襲來その時のランプヤ奇聲連發して大童で走つた怪姿はものすごかつた相だと目擊した某のハナシだが、藝妓〇〇のランプヤへの同情、と〇〇の盆をどりはいづれもケモノ道に王の字に近い樣だテ

奧樣及び女性遊廓素見

◎去る舊盆夜の平鎌田橋畔での精靈流しの夜、見物人の大半は五色町鎌田遊廓を見物に寄る……そのうち女性も大分混つて娼妓の張り店を見物して居る見物の彼女等には同性の犧牲になり居るは娼妓たり藝妓たり、酌婦たるを知つて知らずでか、……平氣で見て居る、かくの如き女性の多い限り公娼撤止はまだ〳〵

磐、平銀連の角力見物と小田吉次氏の初切り振り

◎去る平での常の花一行の角力の初日は丁度日曜日なので正面の特等席の眞中には玉よしの女將を初め喜多乃や八千代等の藝妓連の面々それを中心東に磐銀、西に平銀とヅラリと並んだ曰く、平銀側は木村淸治、永山和平、端山、佐藤芳松諸氏其他約參拾名磐銀側は佐々木龍若氏のみにて其他幹部は見えぬ樣であつたそこで平消防組後援者ならぬ…………小田吉次氏が初切りで賑ぎはした酒は永山和平醸の由良之助で開花の花榮初め花丸が泳ぎ廻るの体

榮の歸り咲き

◎例の榮家の榮は隨分と櫻から青葉と旅行し拔いて枯すゝきのシーズン一葉落ちて天下の秋を知る、……悔しさやるせなく此の程歸り咲きか知られども寒に堪ゆるの梅花將に馨し强く意義あるべく咲いたり〳〵何事も浮世です小名濱の淚は此の頃おだやかですぜ然し人生の濤は荒いですぞ

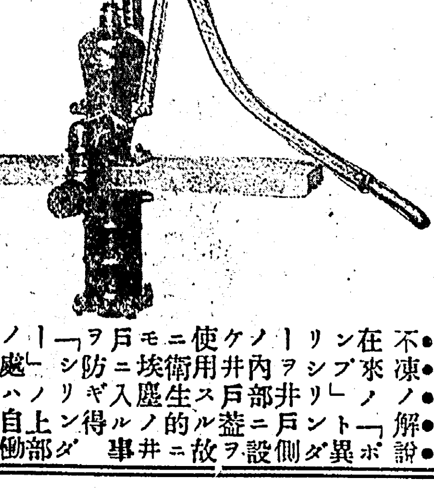
小名濱　清の家附近に强姦狂出沒

△清の家へ行つて遲く歸ると其處に痴漢がまちふせて藝妓を强姦せんとす、否な强姦されたもの未遂にあつたもの一件二件ではない相だ、その藝妓は新米の〇〇藝濱家の〇〇こうなると藝妓も命否な操を的としてかゝらねばならぬ小名濱には居られぬ清の家から遲く歸れぬ宿るより外ないと藝妓の輿論になつて居るさ。

植田鑛泉閣
（植田町近郊）

久之濱商事倉庫株式會社
社長　橋本久太郎
專務　堀部留造

◇四倉町◇
磐城セメント四ツ倉工業所
四ツ倉電氣會社
四ツ倉銀行
四ツ倉運送倉庫會社
磐城銀行四ツ倉出張所
萬年五工業社



實用新案久米式
不凍「ポンプ」

時代ノ進化ハ遂ニ凍ラザル『ポンプ』チ現出セリ

特色
一、クメ式不凍「ポンプ」ハ如何ナル嚴寒ノ地ニテ使用スルモ絕對ニ凍ラヌ事
二、ホースニ連結シテ消火用トシ又鐵管ニヨリテ高所ヘノ揚水トシテ便利ハ申ス迄モナク堅牢ニテ耐久力ニ富ム事
三、安價ニテ在來ノ「ポンプ」ノ如ク冬氣ニ凍ラヌ事ハ實ニ此「ポンプ」ノ一大革新セル所
四、組立簡單ナル故在來ノ「ポンプ」ノ如ク機械ノ手ヲ待タズシテ取附ケ得又破損シタル場合各自ニテ分解修繕スル事ヲ得
五、吸水力ハ實ニ三十尺ヲ超ユル事

●不凍ノ解說●
在來ノ「ポンプ」ト異リ「シリンダー」ヲ井戶側ノ內部ニ設ケ井戶蓋ヲ使用スル故ニ衛生的ニ塵埃ノ入ル事モナク「シリンダー」ヲ防ギ得ル事ノ上部ノ處ハ自由ニ働ク排水器ニヨリ使用後自然ニ排水サレ「シリンダー」ガ井戶ノ中ニアル故井戶ノ溫度ニヨリテ凍ラザルナリ

特許願實用新案登錄第參四四五號

◆詳細說明書御請求次第送呈

平町五丁目
久
釜屋商店
電話長一三九番
振替東京一〇九五六番